

令和5年度 椎葉村立椎葉中学校 学校関係者評価

本年度の重点目標	チャレンジの椎葉中！ ～「生徒がお互いを高め合う学校」へ～		
	1 学力UPにチャレンジ！ → (1)授業にチャレンジ	(2)家庭(寮)学習にチャレンジ	(3)学習環境にチャレンジ
	2 心の成長にチャレンジ！ → (1)「思いやりの心」にチャレンジ	(2)表現(発表)にチャレンジ	(3)ふるさとを愛する心にチャレンジ
	3 健康にチャレンジ！ → (1)心の健康にチャレンジ	(2)体の健康にチャレンジ	(3)優勝にチャレンジ
※ 評価について 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する			

項目	評価指標及び具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等 【 ○成果 ●課題 ◎今後の改善策 】	評価 委員 評価	学校関係者評価委員の意見 【 ○成果 ●課題 △意見 ◎今後の改善策 】
		評価	総合 評価			
学力UPに チャレンジ	(1)授業にチャレンジ：①② ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.4 2.9 3.0	3.1	○問題演習における個に応じた指導を意識できた。(AⅠ型ドリル、自主学習) ●学力の二極化の解消が課題である。(特に1・2年生) ◎平均を下回る生徒やや下回る生徒の学力向上に焦点を当てながら、授業力改善を図りたい。 ○AⅠ型ドリルや手製のワークシート等を活用して家庭学習の充実を図った。 ○AⅠ型ドリルを導入し、授業以外でも積極的に活用する生徒が増えた。 ●最後までやり抜く力をもっと伸ばしていきたい。 ◎家庭(寮)学習の手立てやポイントを具体的に提示する。 ◎課題(宿題)の量が生徒の負担過重にならないように配慮していく。 ○ICT機器を用いて授業に興味を湧かせるような授業を行った。 ○特別支援、個別支援の視点を取り入れたICTの活用ができた。 ●本年度は置いてよい物は自主性にした。その結果、課題忘れが増えてしまった。 ◎更なる効果的なICT活用を研究していく必要がある。	2.8	○生徒に寄り添った授業、指導がされていると感じる。 △ICT機器を使用できる環境は年々良くなり、授業はもちろんのこと、家庭学習でも充実してきたと感じます。反面、タブレット等の利便性に頼り、教科書や資料集、参考書や辞書等上手く使えるのか疑問に思うこともある。 △「最後までやり抜く力」と手立てやポイントを具体的に提示することで、課題解決への糸口を更に追究していただきたい。 ●授業でのICT活用などさまざまな手立てや工夫について成果として結果につながっていると思う。しかし、全体的な学力向上や個に応じた指導については、評価にも表れているように大きな課題としてとらえ、今後も取り組んでもらいたい。 ◎学力の二極化の解消が必要である。生徒同士の学び合いの場面づくりをしていく必要がある。
	(2)家庭(寮)学習にチャレンジ：③ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.4 2.9 3.2	3.2			
	(3)学習環境にチャレンジ：④⑤ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.6 3.0 3.4	3.3			
心の成長に チャレンジ	(1)「思いやりの心」にチャレンジ：⑥⑦⑧ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.3 2.9 3.3	3.2	○教育相談や休み時間等を活用して生徒の話を聞くことができた。 ○車椅子バスケットボール体験学習に向けた道徳の授業を実施し、障がいがある人の立場に立って物事を考え、体験活動の充実を図った。 ◎さらにきめ細かい教育相談や悩み解決への手立てを考えて充実させていく。 ○3年生が最上級生としての言動が見られ、成長を感じた。 ●指名すれば発表できるが、自ら挙手をして発表できる生徒は固定化した。 ◎生徒会を中心に自主的・主体的な活動を更に推進するとともに、自分の意見をしっかり主張できるようになるための支援を行っていく。 ○いろいろな椎葉村の人や事業所等と関わったことで自分の将来像をつかむきっかけとなった。 ○椎葉に戻り働く意思をもつ生徒もみられ郷土を愛する心を醸成できた。 ◎椎葉村学コーディネーターの効果的な活用を考えていく必要がある。	3.2	○授業や行事等、地域と深く関わることが多く、故郷を愛する心や人としての心の成長にも良いことだと思う。 ○椎葉村学には、今後も期待したいと思う。 ○全学年、心の成長を感じる。 ○様々な人との出会いや交流が大切であり、更に充実していただきたい。 △学校の外にも活動の様子が発信され、成果も出始めていると思う。ただ、今後、生徒がやらされてる感じにならないよう更なる取組に期待している。 △指導なしでも自主的に行動できることが望ましい。指導があった結果、「良い子」にできているという印象が長年続いている。 ●「6 普段から生徒の話をよく聞いている」の部分で職員側と生徒・保護者の意識の差を感じる。もっと聞いて欲しいと感じているのではないかな？ ◎生徒とふれあう時間をさらに確保し、生徒理解を充実させていく必要がある。
	(2)表現(発表)にチャレンジ：⑨ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.4 3.0 3.3	3.2			
	(3)ふるさとを愛する心にチャレンジ：⑩ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.5 3.2 3.6	3.4			
健康に チャレンジ	(1)心の健康にチャレンジ：⑭ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.3 3.2 3.5	3.3	○保護者や寮の職員と綿密な連携をとり、家庭や寮での様子の把握に努め、教育相談の充実を図ることができた。 ○地域の行事、部活動など主体的に取り組めた。 ◎地域柄、昔ながらの文化が残っている。良い伝統を引き継いでいき、時代の変化に合わせてかえていくべきである。 ◎ホームページの更なる充実を図り、積極的に情報を発信していく。 ○マスクの着用や換気の指導にあたり、病気や感染にリスクを抑えた。 ○生徒の心身の状態について寮職員とも情報を共有し対応できた。 ●季節に関係なく、水分をとらずに体調不良を訴える生徒がいた。 ◎生徒の健康観察の更なる充実を図りたい。 ○部活動を通して、心身の成長につなげていくことができた。 ●校務分掌の関係上、勤務時間内に仕事ができる、できないは仕方がないが、勤務時間外への仕事の削減が必要である。 ◎仕事量の平準化を図り、仕事の効率化を図る。	3.0	○心や体の健康があつてのことだと思います。大変なことも多々あると思いますが、私達関係する者が最善の方法で対処していければと思う。 △全体的には元気な生徒が多いと思うが、感染症が気になる。特に、部活が原因と思われる事例をよく耳にする為、対応が必要と考える。 ◎先生方の働き方の見直しは不可欠なことだが、生徒の心の健康については、今後も更にアンテナを高く全職員で取り組んでいく必要がある。
	(2)体の健康にチャレンジ：⑪⑬ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.5 3.2 3.3	3.3			
	(3)優勝にチャレンジ：⑫ ・生徒調査 ・保護者調査 ・教職員調査	3.6 3.5 3.1	3.4			

評価項目	自己評価		学校の自己評価	学校関係者評価	課題と改善策
	内部	外部			
学力UPにチャレンジ！	3.1		<p>○問題演習における個に応じた指導を意識できた。(Qubena、自主学習等)</p> <p>○学力向上に向けて日々の授業の改善を行う。 ○家庭学習に対する具体的な対策を行う。</p> <p>○ICT機器を授業内でうまく活用できた。 ○ICT機器を用いて授業に興味を湧かせるような授業を行った。</p> <p>○Qubenaを導入し、授業以外でも積極的に利用する生徒が増えた。</p> <p>○Qubena や手製のワークシート等を活用しながら、家庭学習の充実を図ることができた。2学期英語科において、4月に実施した宮崎県一斉英語テストの落ち込みが見られた問題を再度12月に実施したところ、正答率に向上が見られた。平均を下回る生徒や平均をやや下回る生徒の学力向上に焦点を当てながら、授業力改善を図りたい。</p> <p>○英語検定等、資格取得にチャレンジする生徒が見られた。 ○ロイロノートを利用して質問をする生徒が増えた。</p> <p>○特別支援、個別支援の視点を取り入れたICT機器の活用をすすめていくことができた。</p> <p>○Qubenaなどの学習eポータルの活用も浸透してきた。</p> <p>●クラス内の学力の差が大きく、先生方も大変工夫されている。理解力の高くない生徒への対応や説明で時間が大幅にとられ、学力の高い生徒にとって満足いく内容ではない様子が見られる。</p> <p>●指名すれば発表できるが、自ら挙手をして発表できる生徒は固定化している。</p> <p>●本年度は置いてよい物は自主性にした。その結果、課題忘れ等が増えたように感じる。</p> <p>●学力の二極化の解消が課題である。(特に1・2年生)</p>		
心の成長にチャレンジ！	3.4		<p>○教育相談や休み時間等を活用して生徒の話を聞くことができた。</p> <p>○総合的な学習の時間で、いろいろな椎葉村の人や事業所等と関わったことで、自分の将来像をつかむきっかけとなった生徒もいた。</p> <p>○教育相談を担当学年で回していた学年もあり、生徒も先生の性別等によって話しやすい、そうではないこともあると思うので、とても良いと思った。</p> <p>○人間関係をよく観察し、小さなことも見逃さないようにしたい。○3年生が最上級生としての言動が見られ、成長を感じます。</p> <p>○頭髪、着こなしなどを変更したが、大きく乱れることはなかったように感じます。</p> <p>○定期的な教育相談だけでなく、普段から生徒との会話は必要だと思います。(ラポートづくり、おしゃべり)</p> <p>○系統的、横断的に教育活動をすすめることで、ふるさとを愛する心が育まれている。</p> <p>○車椅子バスケットボール体験学習に向けた道徳の授業を実施し、障がいがある人の立場に立って物事を考え、体験学習の充実を図ることができた。</p> <p>○総合的な学習の時間を通して椎葉村の魅力を学んだり、発信したりすることができた。将来、椎葉村に戻り働く意思をもつ生徒もみられ、郷土を愛する心を醸成することができた。</p> <p>●悩みを話しやすくするための方法を考えたい。 ●友人とのトラブルが多く、いじめ認知件数が多くなった。</p> <p>●さらにきめ細かい教育相談や悩み解決への手立てが必要と感じた。 ●最後までやり抜く力をもっと伸ばしていきたい。</p> <p>●制服の下に着るニットについて、女子は昔からの決め事とかで、3年生にならないと長袖が着れないとのこと。この時代、自由に着れるように指導をしていただけではないでしょうか。</p> <p>●授業に関してはあまりわかりませんが、目標2・3は先生によっても違いがあると思います。とくに生徒の悩み、生徒同士の問題に関わりが少ないように思います。</p>		<p>○ニットについては、生徒に事実確認したところ、そのような事実はないということであった。</p> <p>○生徒の悩みに関しては、教育相談に学年の職員であたる、そして継続をするとよい。成果の有無まで検証はできていないが、相談したいタイミング、内容が個々で違うと思うので、いつでも相談にのるよという体制づくりができ、生徒に伝わればよいと思う。</p>
健康にチャレンジ！	3.3		<p>○地区の行事、部活動など主体的に取り組めた。 ○生徒の心身の状態について寮職員とも情報を共有し対応している。</p> <p>○体調不良での保健室利用が少なくなったと思います。 ○部活動を通して、心身の成長につなげていくことができた。</p> <p>○マスクの着用や換気の指導にあたり、病気や感染のリスクを抑える指導を実施した。</p> <p>●本校においては、毎週木曜日がリフレッシュデーに設定されているものの、木曜日が祝日になった際に部活動が実施されるとリフレッシュデーにつながらないと思います(例：木曜日が勤労感謝の日等)。へき地という特殊性上、午前中部活動が入ると午後の余暇の過ごし方が限定されるため、特に木曜日が祝日になった際の部活動の実施は検討が必要かと思っています。</p> <p>●仕事を平等に分担。 ●ハンカチを持参しない生徒が多い。(その都度話してはいますが・・・)</p> <p>●本校生徒においては、水分を補給する生徒が少ないように感じる。朝の会等で指導をしているが、生徒の意識や自覚を高めるための手立てや授業の実施が必要かと思っています。</p> <p>●地域柄、良い意味でも悪い意味でも昔ながらの文化が残っている。良い伝統を引き継いでいき、悪い伝統は廃止していくべきではないでしょうか。</p> <p>●校務分掌の関係上、勤務時間内に仕事ができる、できないは仕方ないが、勤務時間外に行う仕事はその時間の確保をしっかりとさせていただきたいと思っています。</p> <p>●校舎の周りにいくつか外灯があればと思います。特に今の時期は暗いので部活終わりなどで気になります。(送迎時)</p> <p>●お知らせや案内(プログラム・申込)などの配布物がものすごく早かったり、直前だったりムラがあるのが気になります。</p> <p>●体育大会の時期をひえつき節大会(村行事)と同日にならないようにしてほしいです。</p>		

